

新 雲仙プロジェクト通信 7号

平成25年9月8日(日)

今回、7回目の雲仙プロジェクトは、これまでの活動が、少し受身的であったかとの反省のもと、より、プロボノとしての共助研メンバーの強みを生かした活動にすべく、事前に針貝会長、波木事務局長と関係メンバーに集まっていたいただき、協議した結果を受けて、奥雲仙田代原に向かったものです。

まず、事前の共助研内の打ち合わせ結果について報告します。

◆今後の雲仙プロジェクトの在り方に関する打ち合わせ

日時：平成25年8月28日(水) 15:00-17:00

場所：JCCA 会議室

参加者：針貝会長、波木事務局長、木寺、山下、金尾、矢ヶ部

9月8日の「NPO 奥雲仙の自然を守る会（以下「守る会」と略）」との打ち合わせを踏まえ、下記の内容について確認した。

- 「NPO 奥雲仙の自然を守る会（以下「守る会」と略）」の活動の主旨に賛同するとともに、共助研の活動目的にも合致することより、「守る会」の活動への支援をこれまで6回程度おこなってきた。
- 今後も、継続した支援を行う予定ものとするが、共助研メンバーがもつ専門性を活かした活動支援を行うことで、さらに充実した支援内容とすることが必要であると考えられる。
- これまでの支援活動を通して、「守る会」の組織あるいは「守る会」の活動に対して気づいた点を考慮した支援内容を整理し、今後の「守る会」への支援活動について、下記の事項をふまえた提案を行う。
 - ① 田代原地区におけるミヤマキリシマの価値を再確認・再評価し、活動目的を明確化する支援
 - ② 「守る会」の組織力強化および継続する活動に関する支援
 - ③ 「守る会」の経済力強化のための考えられる措置に関する提案
 - ④ 「守る会」の存在や活動等に関する社会的な役割をアピールするための支援
- 田代原地区のミヤマキリシマの保全是、平成17年11月の環境省九州環境事務所の雲仙地域管理計画に記載されている保全方針に基づき、保全活動を実施することとなるが、この管理計画では「田代原地区の草地環境におけるミヤマキリシマの生育を維持する」と記載されており、特に、草地環境を維持することが重要なポイントであると理解できる。
- この草地環境は、放牧という生業の場であったことで維持されてきており、現在、放牧の牛の数が減少している状況を考慮すれば、放牧のみに頼らない人為的な管理(草刈等)を行わなければ、草地環境そのものの維持が困難になると考えられる。
- これらの理解を踏まえたうえで、田代原地区のあり方、ミヤマキリシマの保全活動を計画の検討を進めなければいけないが、そのためには、現地の状況把握が欠かせない。そのために、今回の保全対象地区を対象とした植生分布図等の情報をマッピングする必要がある。
- 9月8日の「守る会」との打ち合わせには、共助研として上記の事項を提案するとともに、「守る会」としての問題点の認識状況や、共助研への期待事項等を具体的に把握する。

◆改装中の事務室を横目に、今後の対応等について話し合いました

今回は、共助研からは、波木事務局長、山下さん、それと私（矢ヶ部）の3名で、じっくりと打ち合わせ時間を持ってもらおうということで、奥雲仙田代原に向かいました。

いままでの NPO 活動の場所は、今回の採択事業の一環で改装中でしたので、お寺の本堂での打ち合わせとなりました。ちなみに、9月末には NPO の事務室？は、完成予定ということで、木造の天井の高い魅力的な場所になるということです。

さて、到着すると、初めてお会いする若い女性の方がいらっしゃいました。自己紹介すると、お名前は橋本さんという雑誌の編集者のかたで、田代原を雑誌「ながさきプレス」来月号で紹介すべく、記事を書くための情報収集に来られていました。少しの時間、守る会の方と橋本さんと私たちで雑談的な話をしていると、昼食の準備ということで、おいしそうなお弁当と、デザートイチジクが配られました。まあでも、このお弁当、そして、イチジクのおいしいこと。これを500円で販売しているとのことでした。



さて、本題の打ち合わせを、橋本さんを交えてはじめました。まずこちらから、先日の打ち合わせでの結果を踏まえた提案を行いました。そのなかで、この田代原地区のミヤマキリシマを保全する方針として、草地環境を維持するという点に、みんなの興味が集中しました。環境省の方針に、草地環境を維持するという記載があり、現在、草地環境が失われつつあるにもかかわらず、その対応を誰もとっていないのではないかと、また、草地環境を維持しようと除草すると、自然公園区域であるので除草してはいけないとの注意を受ける等。



注意する方も、この環境省の方針を知らないのではないのか、自然公園区域という制約を一般論的に解釈して除草すると注意してくるのではないかと、この環境省の方針をみんなに認知してもらうのが先ではないか等の白熱した意見がでました。

また、これからミヤマキリシマの保全活動を行うためには、現場の状況をきちんと踏まえなければいけないということで、木田さんより、現地の上空から見た貴重な写真等の提供もありました。さらに、これまでの牛等の放牧の変遷や、環境省、県職員等とのやり取りについての履歴を、これまでたびたびやってこられた中田代表が整理することも決まりました。共助研としては、現地の確認調査に加え、中田代表のこれまでの履歴を踏まえて、今後の行政への対応についての作戦を立てることが必要となってきます。9月18日には、長崎大学の深見聡先生ともお会いして、アドバイスをいただく予定としてい

ます。このように、いよいよ本格的なミヤマキリシマ保全プロジェクトが始まりそうな気配です。
皆さんの応援、ご協力、よろしくお願いします!!!

本日の一枚



雑誌「ながさきプレス」の編集者橋本さんと、草花を活かした飾り物制作を指導している入口さん
(今回、特別参加してもらいました橋本さんにも応援していただければとの期待を込めて)

【第7号 新雲仙プロジェクト通信作成担当：矢ヶ部】